Lesson1

もし屋外や自然の中にいることを楽しまない日本人がいるとしても、私はそのような人に一度も会ったことがない。私が知っている人はみんな、ハイキング、スキー、登山、熱い温泉に浸かること、そしてとりわけ、花見が好きです。毎年、3月下旬と4月上旬に、飲み騒ぐ人の集団が満開に咲いている桜の木の下に集まり、ピクニックをする。彼らは、飲んだり、食べたり、そして最近では、カラオケを歌ったりしながら楽しいときを過ごします。

　ほぼ一年中、桜の木はただの普通の木です――きれいで静かですが、特別なものは何もない。しかし春の数週間のあいだ、昼も夜も見ることができる白やピンクの花であふれて、桜の木は見事に活気づく。これらの美しい木は、春の始まりを示し、新しい始まりを象徴するようになってきた。桜の花が咲くとき、新学期が始まる。若い社員が新しい仕事を始める。ほぼみんなが、一年のうちで好きな時期です。

　誰もがまた、好きな花見の場所があるように思える。東京の浅草と上野公園のようないくつかの場所は、とても混雑しているのでよい場所を確保しなければいけない。私の最初の花見パーティーは、桜の花を見るのに最善の場所のひとつですが最も混雑した場所のひとつでもある大阪城公園でした。私はそこにいてわくわくしました。天気は温かく、晴れていて、みんなとても機嫌がよかった。そして、もちろん、桜の花はすばらしかった。

アメリカ人もまたピクニックをするのが好きですが、アメリカ人のピクニックは学校が終わり、天気が確実に晴れている夏にふつう行われます。私たちは車のトランクにピクニック用のバスケットを詰め込み、一番近い湖や川沿いの公園に出かけます。日本のようなおにぎりやサンドイッチの代わりに、私たちは、ポテトサラダとホットドッグかフライドチキンを食べます。しかし、私たちは、ピクニックで同じことをします。食べて、飲んで、陽気になります。また、バレーボール、野球あるいはサッカーをするのも好きです。

ああ、ところで、アメリカにも桜があります。例えば、ワシントンDCには、数千本の桜の木があり、すべて日本からの贈り物です。シアトルにあるワシントン大学に通っている私のアメリカ人の友人は、春に、キャンパスは満開になった数百本の日本の桜の木で活気づき、桜の木の下で、日本式の花見ピクニックがすべてそろっていると話してくれた。

Lesson2

ほとんどのアメリカ人は生まれたとき、姓に付随するファーストネームとミドルネームが与えられる。(エドガー・アラン・ポーとルイザ・メイ・オルコットはアメリカ文学からの二つの例です。)ミドルネームは、一種の2番目のファーストネームです。ミドルネームは、祖父母やほかの優しい親戚に敬意を表すためにしばしば与えられ、必要不可欠というよりも装飾のためというものです。私たちにとって最も重要なものは、ファーストネームと姓です――生活の業務を行うために私たちが使う名前です。

　アメリカ人が初めて誰かと合うとき、私たちはファーストネームと姓を使って自己紹介します。「こんにちは、私はロバート・スミスです。はじめまして。」しかし、いったん自己紹介が終わると、私たちはすぐに、ファーストネームあるいは短縮形さえ使ってお互いを呼び始めます。「どうぞ、ロバートと呼んでください。」なぜでしょうか。一つの理由は、アメリカ人は、ファーストネームを使うことはより親しみやすく、そしてより形式張らないと感じることです。私たちは、ファーストネームで呼び合う仲であることが好きです。

　もうひとつの理由は、ファーストネームを使うことは話者の間で社会的な地位の明白な違いがないことを暗示しています。そのことは、私たちにお互いにより心地よく感じさせ、より平等のように感じさせます。日本人と違い、私たちは通常お互いに肩書をつけません。(もちろん、フォーマルな状況では、たとえば大学の教員をジョーンズ教授、かかりつけ医をドクター・ウィルソンと呼びます。)私が初めて日本に到着したとき、誰もが姓のあとに肩書を持っているように思えたことに驚きました。私の日本語の先生は森先生でした。隣人は田中さんでした。上司は寺田部長でした。バスケットボール部の友人は単に先輩と呼ばれ、まったく名前がついていませんでした。そのことを考えたとき、私はどの人のファーストネームを知らないことに気づきました。

　なぜ日本でそのような肩書がとても大切なのか、私には正確にはわかりませんが、社会における地位についての長年続いている考え方と何か関係があると私は思います。アメリカでは、同じ伝統を持っていません。民主主義と個人主義についての私たちの考え方は、年齢、地位、あるいは階級にかかわらず平等に扱われること好むことを意味しています。そのことはまた、私たちがファーストネームで呼び合う仲であることが好きな理由です。

Lesson３

日本とアメリカが共通に持つ１つのことはスポーツ好きだということです。アメリカでは、（住んでいる場所次第で）ジョギング、サイクリング、サーフィンとゴルフのようないくつかのスポーツは１年中楽しむことができる、一方ある季節だけのものもある。例えば、野球は春のスポーツ、水泳とテニスは夏のスポーツ、そして、アメリカン・フットボール、サッカー、ラクロスはすべて秋に行われます。もちろん、アイス・ホッケー、スキーそしてスノーボードは冬にもっとも人気があります。

　学校のチームであっても公園で友人と一緒であっても、スポーツをすることはとても楽しい――よい運動にもなる。しかし、私たちはみんな熟練した運動選手であるとは限らない。だから、スポーツを楽しむもうひとつの方法は、スタジアムか競技場でスポーツを観戦するか、テレビでスポーツを見ることです。もし私に尋ねるならば、（最近はチケット代がとても高いので、試合を見に行くことはとても高価になることがあり得るけれども）生で好きなチームを見ることは、テレビで見るよりもはるかにいいです。

テレビでは退屈に思える多くのスポーツは、自分でそれらを見たときはしばしばとてもわくわくします。例えば、競馬を例に挙げてみましょう。私には、テレビでの競馬はかなり退屈です。しかし、私が競馬場に出かけるとき、ほかの人と同様に、私はすぐに興奮に巻き込まれます。非常に多くの日本人がそのような競馬の莫大なファンである理由がわかりました。同じことが相撲にも当てはまる。テレビではそれほどおもしろくない。しかし、国技館で1日を過ごすことは、伝統的な祭りに参加しているようなものです。

もちろん、私の国で大流行しているいくつかのスポーツは、あなたの国ではまったく人気がありません。そして逆もまた同様です。例えば、サッカー、フィギュアスケート、そしてラグビーでさえ、日本で多くのテレビの観客を引きつける。アメリカでは、これらのスポーツはテレビでめったに見られません。一方、アメリカでは、プロのホッケーと同様にアメリカンフットボールとバスケットボールは極端に人気があるが、日本ではほんの少数のファンがいるだけです。しかし、たとえあなたがどの国にいようとも、もしあなたがスポーツのファンならば、週末はとても忙しくなるでしょう。非常に多くの選択肢があるから。